

去る 2018 年 10 月 14 日 日曜日 10 時より 13 時までイオンコパス東京八重洲会議室にて東京歯科大学客員教授吉成正雄教授の講演を IIRD 主催で行った。

講義内容は①フッ化物とチタンの関係（主に腐食について）②ジルコニアの特性、特徴、可能性③インプラント周囲骨吸収に及ぼす力の影響について講演があった。

- ① pH4 程度の賛成フッ化物のみがチタンを腐食する。多くのフッ化物入り PMTC 用ペーストは問題が少ないがリン酸フッ化ナトリウム (APF) 商品名フルオール・ゼリー歯科用 2%はチタンに影響がでる。また、インプラント周囲骨吸収の原因には金属イオンの溶出、摩擦粉の放出、汚染、セメントの残留、細菌感染、力学的因子等がある。その中で中性フッ化物の応用によってイオンが溶出し、インプラント周囲骨吸収が起る説は無理があることを丁寧に説明いただいた。
- ② ジルコニアといってもいろいろなものがあり、ジルコニウム、ジルコニア、ジルコンについて説明を受けた。特に歯科用ジルコニアで使用することが多い正立晶ジルコニア多結晶体 (TPZ) (1)従来型 TZP (2)高透光性 TPZ (3)PSZ 系のそれぞれの特徴の講義を受けた。また、ジルコニアの対合歯への影響アバットメントとしてのチタンインプラントへの影響、ジルコニアインプラントについても講義を受けた。
- ③ 力が骨に加わると骨が歪み骨とインプラントの界面に残留応力が発生する。直径の小さいインプラントの方が小さな力で骨吸収を起こす

時間の許す限り受講生の質問が続き、最終的には会議室を出て廊下で時間外での質問を受け付けていただきました。少人数であったが活気のある研修会であった。

